

小金井市長 西岡真一郎様

「新庁舎・新福祉会館」建設についての見解と申し入れ

2018年11月20日

市民自治こがねい 「新庁舎・新福祉会館」チーム

11月7日から13日にかけて「新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設について」の市民説明会が、市内5か所で開催されました。

当該チームのメンバーは、これまでも新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設について関心を持ち、それぞれの「市民検討委員会」、ワークショップに参加するなど、さまざまな形で意見を表明してきました。今回も、基本設計を前にして大きな節目となる「市民説明会」であると思い、積極的に参加、発言してきました。

「市民説明会」を終え、ここで改めて、新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設についての見解をまとめましたので、ご検討のうえ、ご見解を文書でお示しいただきたくお願い申し上げます。

お答えいただける項目だけでも第1次回答期限として、12月10日とさせていただきます。宜しくお願い申し上げます。

- 1 「新庁舎及び（仮称）新福祉会館」を複合施設として建設することを強く要望します。複合化のメリットをより生かした案は、これまでのところ「Cre-2」だと思います。

（1）「今後の整備方針①」で示された「清掃関連施設の暫定移設を行わない」、「新福祉会館機能の早期回復を優先」について。これを満たすとして新たに示された「C-3」では、複合化の可能性を最大限引き出すことが設計上、建設上制約され、複合化のメリットが損なわれることを懸念します。いかがでしょうか。

（2）「新福祉会館機能の早期回復を優先」する「C-3」案は、どっちつかずの折衷案で複合施設案とは言えません。新福祉会館が先行的に施工し、竣工が8ヶ月早まるとされていますが、一方で新庁舎の竣工は、5ヶ月遅れることになり、賃貸庁舎の解消は、また、また先になります。

新福祉会館が先行的に仮使用されるということは、同時竣工であれば、必要とされない安全対策、設備などが必要になりませんか。

また、接合部分がどうなるか不明ですが、新庁舎竣工までの期間、地震、災害があった場合、接合部分の安全性が危ぶまれます。「一体化」された後も、地震、災害時に、接合部分のリスクが同時竣工に比べ、明らかに高いと思います。「C-3」の場合、接合部分にまたがる空間確保は難しく、本来同時竣工であれば可能な空間利用が制約されることは明らか

です。それでも、「新福祉会館機能の早期回復を優先」は優先されるべきですか？本末転倒ではありませんか。

(3)「Cre-2」でも、工事中の搬入路の一つを高架下にする事で、「清掃関連施設の暫定移設を行わない」ということが可能になるのではないのでしょうか。

(4)「Cre-2」と「C-3」のコストの比較が示されましたが、「C-3」でも、両施設を免震にし、既存施設の解体費用も含め、敷地外に確保する駐車場賃料、竣工が遅れることに伴う第2庁舎の賃貸料の増加などを考えると、「C-3」のコスト面での優位性はほとんどないと思います。

コストについては、ランニングコストも含め、検討したものを提示して明らかにしていただきたいと思います。

II 「環境負荷の低減」 「長寿命化」

基本設計を前にして示された今回の市民説明会の提案と説明は「施設配置」についてのみとっていいほど偏ったものでした。

基本設計にあたって重要な視点である「環境負荷の低減」、「長寿命化」については全くと言っていいほど触れられていませんでした。公共施設のCO2排出量は目標値に向け削減どころか19.4%も大幅に増加しています(2016年度)。

今回の両施設の規模は市の公共施設の中では、最大の建築物です。今後、公共施設の更新、統廃合、長寿命化等が重要テーマとして待ち構えていることから、そのモデルとなることを自覚し、設計、建設にあたるべきです。「環境負荷の低減」、「長寿命化」にむけ、きちんと目標値を定め、対策を図ることが必要です。そうでないと将来に禍根を残すことになります。

市[佐藤]は、以下の内容を基本計画段階でも示すべきと思います。しかしながらそれがでいままコンストラクションマネージメント業者選定・基本設計に入らざる得ない場合でも、少なくとも、こういった項目と数値を掲げられる業者であることを、選定基準の中に入れることを確約していただきたいと思います。

●環境負荷の大幅な低減に向けて

- ①CO2の大胆な、劇的な削減目標を設定する。
- ②ゼロ・エネルギー実現に向けた対策
- ③再生エネルギー100%を目標とする。
- ④設計～建設～維持管理～リフォーム対応～廃棄など全過程での「グリーン庁舎」にふさわしいシステム、手法、対策

●長寿命化に向けて

- ①耐用年数(寿命)を100年とする。

②そのための具体的な対策の提示

Ⅲ 防災拠点としての役割と機能

新庁舎はもちろん複合化された 2 施設、敷地の全体が防災拠点の役割と機能を発揮することになります。また[佐藤2]、災害時には災害対策本部が置かれます。

- ①両施設とも免震構造にすることがベストと思います。
- ②地下室を大きくつくり、備蓄も可能にすることも検討すべきだと思います。

Ⅳ 市民参加で市民のための庁舎へ

今回の市民説明会は、本来であれば、基本設計を前に、市民の意見を聞き、取りまとめをするべく事前に行政としての案を市報や HP で公開したうえで実施し、複合化方針と共に基本計画を明確にするものであるべきでした。

新庁舎も新福祉会館も、市民参加の検討委員会が答申した基本計画案は、モロモロの事情で変更を余儀なくされてきました。新庁舎は当初の基本計画通りに進んでいけば、すでに竣工している時期です。時期や階層などの修正が余儀なくされている今、基本計画で述べられたその理念は、修正されることなくシッカリ担保されているのだろうかとの不安もぬぐえません。

理念を実現するには、ハード的な設計も当然重要ですが、庁内の仕組みの確立など、ソフト面の改善も同時に視野にいれる必要があります。庁内改革も含めたソフト面についての検討も、時期を逃すことなく進めて欲しいと思います。

そして、いまなお「基本計画」が定まらない状況で、基本設計や実施設計が、うまく進んでいけるのかどうかも、市民としては、はなはだ懐疑的ですが、諦めることなく声を届けていかねばならないと考えています。

いまだ生煮え状態の「どのような機能を、どのように配置するのか」についても合意形成に向け、市民説明会などを行うことも必要です。

「市民のための庁舎」にとって市民参加は不可欠です。

- ①全市民に対しての広報、周知は、今年 4 月市報特集号で Cre-2 が優位としたところで止まっています。今回の修正方針については、市民説明会、HP にとどまっており、全市民には届いていません。早急に周知することを望みます。
- ②今回の「市民説明会」で出た意見は、どのような形で公開されるか教えてください。
- ③今後の市民参加についての手法と日程の目途を明らかにしてください。

以上